

事業評価調書（新規）

事務所名 (課名)	農林水産部農林水産局 農地整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	課長 二位 孝夫 <small>(課長補佐兼農営ほ場整備係長)</small> 鈴木 敏亮	内線	4003 (4014)
--------------	---------------------	---------------------	---	----	----------------

事業種目	ほ場整備	事業名	事業区間	総事業費	7.1 億円	
		経営体育成基盤整備事業	本庄地区	内用地補償費	0.15 億円	
所在地				事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
兵庫県南あわじ市阿万				H19	H19	H23
事業目的			事業内容			
区画形質の改善や水路、農道等の整備を行い、意欲と能力のある農業の担い手を中心となって優良農地を将来にわたり維持・保全することで食料の安定供給力を向上させ、農業の多面的機能を発揮することを目的とする。			・ 区画整理 25.9ha ・ 負担率 [国50% 県27.5% 市17.5% 地元5%]			
評価視点	評価結果の説明					
(1)必要性	本地区は水稻、レタス、タマネギ、キャベツを主体とした三毛作地帯であり、県下でも有数の農業地帯である。 しかし、小区画（6a）で不整形な農地や、幅員の狭い農道での農作業、また用排水路の水管理や施設管理に多大な労力を要している。 このため、早急に生産基盤の整備を行い、大型機械による農作業の効率化や、水管理や施設管理の省力化を図ることによって、地区の農業の中心となる認定農業者の育成を支援していく必要がある。					
(2)有効性・効率性	費用便益比B/C=1.51（便益額B=1,129百万円、総費用746百万円）であり、事業としての効果が十分に期待できる。 認定農業者（担い手）への農地集積 認定農業者数：現状（H17）14戸（12.7%） 目標（H28）21戸（19.1%） 農地集積面積：現状（H17）5.9ha（20.8%） 目標（H28）8.5ha（32.8%）					
(3)環境適合性	存続基盤が脆弱な種（レッドデータC）のヒメマルマメタニシが生息できるように排水路の底に土が堆積する構造とする。 山際の水路に生息する両生類が水路から容易に這い上がり移動できるように、緩傾斜型水路を用いる。 農道の舗装材料として、資源循環のため再生砕石の積極的活用を図る。 景観作物（イワダレソウ）を活用して、整備後の法面を緑化することによって景観に配慮する。					
(4)優先性	地区内の県道工事（主要地方道 洲本南淡線～H19）と同時期に実施することにより地域の一体的な整備が図られる。 河川からの用水取水ポンプが耐用年数（20年）を超過し、頻繁に故障をおこしており安定的な用水確保のため早急な整備が求められている。					